

ミカン生育情報

千葉県
平成 27 年 9 月 号

平成 27 年 8 月の気象

平成 27 年 8 月の半旬別の気象を表 1 に記した。平均気温は、第 1 から第 3 半旬までは平年より高く、第 4 半旬以降は平年より低かった。月平均気温は 25.7℃で、平年より 0.2℃低く、前年より 0.2℃高かった。

降水量は、第 1 から第 3 半旬までは平年より少なく、第 4 半旬以降は平年より多かった。月合計は 180mm で、平年の 135%、前年の 290%であった。

日照時間は、第 1 から第 3 半旬までは平年より長く、第 4 半旬以降は平年を下回った。月合計は 197 時間で平年の 90%、前年の 92%であった。

台風は 14 号と 16 号が太平洋沖を通過し、15 号は九州に上陸した後日本海側へ抜けたが、直接の影響はなかった。

表 1 平成 27 年 8 月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	27.9	25.9	27.0	0	18	0	58	37	53
2	27.1	26.2	26.2	0	26	12	53	37	32
3	27.1	26.3	26.0	7	25	26	39	36	29
4	25.8	26.1	26.9	98	15	0	6	35	63
5	24.7	25.9	25.6	20	19	8	32	35	32
6	22.2	25.4	21.8	56	29	18	9	40	5
平均/計	25.7	25.9	25.5	180	133	62	197	220	213

果実及び樹の生育

調査園地と暖地園芸研究所の本年度の温州ミカンの着果量は、樹によるバラツキはあるものの、早生温州、普通温州ともに平年より多い。7 月後半から 8 月前半の乾燥で強い水分ストレスがかかり、暖地園芸研究所内では葉が巻く状態となり、肥大の鈍化が心配されたが、摘果と 8 月後半の降雨で葉の巻きは解消され肥大も促進された。

暖地園芸研究所内では、極早生温州の樹冠上部で日焼け果が発生し始めている。また、8 月後半の降雨以降、数は少ないものの裂果している果実が散見された。

8 月 31 日における各調査地の果実の生育を表 2 に示した。調査地の横径、縦径の平年比は早生温州がそれぞれ、95%、97%、普通温州がそれぞれ 98%、99%と、平年並みの生育となっている。

病害虫の発生 (暖地園芸研究所内)

一部の樹にミカンハダニが発生している。7 月に殺ダニ剤の散布を行わなかった部分ではミカンサビダニの被害が拡大している。山林に接している園地では、果樹カメムシ類による吸汁被害が確認されている。カネタタキによると思われる果実表面の加害が一部で見られた。

表2 果実の生育（平成27年8月31日）

No.	種類・品種	調査地	横径 (cm)		縦径 (cm)	
1	興津早生	三 芳	4.7	(97)	4.0	(95)
2		千 倉	4.8	(97)	4.1	(97)
3		暖地園研	4.5	(90)	4.2	(99)
4	大津4号	三 芳	5.0	(101)	4.1	(102)
5		千 倉	5.0	(97)	4.0	(98)
6		暖地園研	4.9	(98)	3.9	(99)
7	青島温州	三 芳	4.8	(97)	4.1	(99)
8		千 倉	4.8	(96)	4.0	(97)
9		暖地園研	4.9	(99)	3.9	(98)
10	川野夏柑	暖地園研	7.1	(108)	6.1	(105)
11	日南1号	暖地園研	5.8	(-)	4.7	(-)
	平均*	早生温州	4.7	(95)	4.1	(97)
		普通温州	4.9	(98)	4.0	(99)

() の数字は平年値（平成7～26年の平均）を100とした比数 ※日南1号は本年から調査

*早生温州：No.1～3の平均、普通温州：No.4～9の平均

9～10月の栽培管理

摘果 9～10月にかけて、早生温州の樹上選果と普通温州の仕上げ摘果及び樹上選果を行う。裂果、傷果、日焼け果、腰高果、外周部の大玉果、内裾部の小玉果等を取り除き、適正着果量（適正葉果比：早生温州では30葉に1果、普通温州では25葉に1果）まで摘果する。樹上選果では上向きの大玉果や2S以下の小玉果、傷果を取り除き、果実品質を揃える。

極早生温州の日焼け防止 極早生温州の樹冠上部の果実については陽光面の果面が日焼けによって色があせたり、褐変、あるいは壊死することがある。白色のテトロン製果実袋などで物理的に遮光することにより、日焼け果の発生率を軽減できる。

浮皮症の軽減対策 浮皮症は着色期の高温多湿により増加する。園地の通風を良くし、排水の点検を行い乾燥に努め、浮皮になりにくい下垂した果実を残し、上向きの大玉果を摘果する。また、収穫前までにカルシウム剤を20～30日間隔で2～3回散布する。

病虫害の防除 果樹カメムシ類は園内外を見回り、飛来を確認したら早急に防除を行う。ミカンハダニ、ミカンサビダニについても園内を良く観察し早めに対処する。ミカンハダニの9月以降の防除の目安は、寄生葉率20%（葉10枚のうち2枚にハダニが寄生している状態）である。防除の際には、同じ系統の成分を含む殺ダニ剤の連用は避ける。防除に際しては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>